

## 地元の民間スポーツ施設・企業を巻き込んだ運営モデル （高崎スポーツクラブ 群馬県高崎市）

### 1. 設立から3年で会員1,000名に到達！

高崎スポーツクラブは、JR 高崎駅周辺の城東・佐野地区を拠点に活動しているクラブです。このクラブの設立はクラブの代表兼クラブマネジャーである梅山友久さんとその友人の鈴木昭彦さんが平成14年度から高崎ユネスコ協会への資金集めを目的として開催したスポーツ教室（バドミントン教室・ゴルフ教室）が始まりでした。梅山さんがスポーツ教室を続けていく中で、「総合型地域スポーツクラブ」という名前を耳にし、平成18年度より日本体育協会育成指定クラブ事業を受けて平成20年1月に設立しました。現在、スポーツ振興くじ助成総合型地域スポーツクラブ自立支援事業の4年目を迎えています。

設立当初の会員数は270名程度でしたが、教室数を増やすことで400名、600名と増加しました。平成21年9月に、クラブのボウリング教室を開催しているボウリング場（パークレーン高崎）のサークル（リーグ）会員の650名に準会員になってもらうことで会員数が1,000名に到達し、現在では1,100名になっています。会員の内訳は、小学生と中年層（30～50歳代）がそれぞれ30%を占めています。スポーツ教室の種目数は12あり、会費は年1,000円で別途スポーツ保険料と各教室の参加料を徴収する形式となっています。

クラブの収入は平成22年度決算時において、参加料収入が320万円、事業収入が120万円、繰越金25万円、協賛企業の補助金が5万円、toto助成金800万、年間総額1,270万円です。

高崎スポーツクラブは今年で設立4年目を迎えた比較的若いクラブですが、短い期間で会員数を多く獲得し地元の企業を巻き込んだ運営手法を紹介します。

### 2. 民間スポーツ施設の協力によって生まれた「クラブハウス」

高崎スポーツクラブが一定の会員数を確保している要因の一つとして、スポーツ教室の多くを民間スポーツ施設で行っていることがあげられます。例えば、ボウリング、フットサル、乗馬、ゴルフ、テニス、陸上、スイミングなどの教室で、クラブではこれらの教室を民間スポーツ施設の一部を使って開催し、指導についても民間スポーツ施設の指導者に行ってもらっています。民間施設の快適な環境に加えプロによる指導にもかかわらず、廉価な参加料で指導してもらえるのが、このクラブの大きな魅力となっています。このように高崎スポーツクラブでは、民間スポーツ施設を利用した教室運営で、質の高い事業を展開しています。

クラブでは、民間スポーツ施設の一部をクラブハウスとして利用しています。現在、高崎スポーツクラブではクラブ専用のクラブハウスを持っていません。しかし、今回、訪問したボウリング場（パークレーン高崎）のフロアにはウッドデッキが敷かれたスペースがあり、クラブ会員はそこをコミュニケーションの場（クラブハウス）として利用することができます。

施設の一部をクラブハウスとして開放することに、パークレーン高崎の支配人でありクラブの常任理事でもある宮沢隆さんは、「昔、子どもたちが



公園で遊び、親たちは子どもたちを見守りながら公園で井戸端会議をしていたように、子どもたちがボウリングをして、親たちはウッドデッキで井戸端会議をするという環境を作っていきたい。」と語ります。

高崎スポーツクラブの教室が開催されているその他の民間スポーツ施設でも、同様にクラブ会員がスポーツ後のコミュニケーションの場として利用できるスペースがあります。クラブ専用のクラブハウスではありませんが、いわば「第2のクラブハウス」としてクラブ会員に好評を得ています。

### 3. 地元企業の協賛による、会員を「飽きさせない工夫」

高崎スポーツクラブは民間スポーツ施設だけでなく、スポーツと直接関係のない他業種の地元企業からの協賛も受けています。その中でも会員に人気のあるのが、市内の大型温泉施設の特典です。クラブ会員になると、通常 890 円（平日）の入館料が 500 円になるという特典があり、大変好評です。

代表の梅山さんは、「スポーツをする人でお風呂が嫌いな人は少ない。こういった特典をつけることでスポーツ教室以外にもクラブ会員を飽きさせない工夫をすることが会員確保において大事だ。」と語ります。

また、12 月にはクラブ主催のクリスマスパーティを開催する予定ですが、会場は協賛企業である地元ホテルの特設会場を利用し、地元のラジオパーソナリティを招いて行うなど、ここにも会員を飽きさせない工夫が垣間見えます。

このような、地元の他業種の協賛は、梅山さんをはじめクラブの方々が足しげく企業に訪問した成果です。クラブの活動実績や思いを伝えることで次第に理解され、協賛してもらえることになりました。また、会員数 1,000 名を超えていることが、企業側に宣伝効果や地域貢献のメリットを感じさせるインパクトがあったと言っても過言ではありません。

### 4. 民間企業のノウハウを活かしたキャンペーン

クラブでは新たな会員獲得のための広報活動やキャンペーンにも力を入れています。まず、広告では、パークレーン高崎のレーンの上に、よく目立つ横断幕の広告を出しています。また、各教室で使う施設内には、クラブの「のぼり旗」を設置しています。

広報誌では、高崎市発行の広報誌「広報高崎」にクラブ情報を掲載した結果、バドミントン教室へは募集が定員数を上回り、参加を断る時期もあったそうです。現在は地域のフリーペーパー「ちいきしんぶん」や、自治会の回覧版への掲載に切り替え、より地域住民の目に届きやすい広報活動を展開しています。ラジオでの紹介や、チラシの全戸配布もしています。

しかしながら、スポーツ関係者には認知されても、一般の地域住民にまでなかなか「総合型地域スポーツクラブ」の存在や「高崎スポーツクラブの活動内容」についてまで認知はされませんでした。そこで平成 22 年 10 月から、1 ヶ月定額（一般会員 5,000 円、シニア・ジュニア会員 3,000 円）で何教室でも何回でも受講できる「チャレンジスポーツ・キャンペーン」を期間限定で始めました。テニス、ボウリング、フットサル、グラウンドゴルフ、乗馬（1 回のみ）、ゴルフ、バドミントン、陸上、スイミング、子ども向けの教室など盛りだくさんのメニューです。民間施設の利用料金からみれば、かなりお得な料金設定になっています。

このキャンペーンはクラブの運営委員である民間スポーツ施設関係者から出されたアイデアです。民間企業の方がより効果的に地域住民に周知する方法を知っているので、こういった民間のノウハウもクラブで活かされています。このキャンペーンの他に無料体験教室も開催しています。

## 5. スポーツの価値への共感から、目指す「地域の総合化」

高崎スポーツクラブが多数の民間企業から協力を得られている要因は、企業側にクラブの思いを共感してもらっている点があげられます。クラブを立ち上げる際、代表の梅山さんは、スポーツを地域社会になくしてはならない「文化」として根付かせたいという強い思いがありました。教師でもある梅山さんは、自身が直面する教育現場で、スポーツがただ体を動かすだけのものではなく、青少年にとっては心身の健全育成に役立つ教育的価値があると確信していました。また、スポーツはお金を払う「価値」のあるもので、それを多くの人に伝えたいという信念もありました。

梅山さんが所属する地域のスポーツ指導者協議会（日本体育協会公認スポーツ指導者や教員を中心とした会員数約 3,000 名の組織）の中には、民間スポーツ施設にかかわる同じ思いの指導者がいて共感の輪が広がり、現在もクラブの運営委員になってもらっています。

そもそも各企業にとっては、必ずしも総合型地域スポーツクラブに関わる必要性はありません。しかも、廉価での施設開放や利用は、企業にとっては収益性の望める活動ではないのです。しかし、高崎スポーツクラブの事例から見受けられるのは、企業がクラブに関わることで地域が活性化し、地域が活性化すれば企業にとってもメリットになるということです。つまり、高崎スポーツクラブがプラットフォームとなり、そこにスポーツに関わる企業が集まり、可能な範囲で支援します。クラブに集まった多数の会員により、他業種企業との相乗効果や、様々な波及効果が生まれ、最終的にクラブの利益は地域全体に還元されます。

スポーツの価値を発信するクラブがあることで、「地域を総合化する」のが高崎スポーツクラブの目指すクラブづくりです。民間企業の協力・支援を最大限活用した地域スポーツクラブの一つのありかたを知ることができました。1 スポーツクラブとしてだけでなく、これからの日本のスポーツについても梅山さんが熱く語っていらした姿はとても印象的でした。

（取材日：平成 23 年 9 月 28 日）



左から宮沢氏、梅山氏、  
県教育委員会の上原氏、アドバイザーの梅澤氏

### 【高崎スポーツクラブ プロフィール】

1. 設立 設立年月日：平成 20 年 1 月 13 日
2. 地域 群馬県高崎市城東・佐野地区：人口約 25,000 人
3. クラブ 会員数：1,100 名（平成 23 年 9 月現在）
4. 連絡先 〒370-0041 群馬県高崎市東貝沢町 4-12-5  
TEL：027-363-8351  
URL：<http://www.taka-spo.com/index.html>  
E-mail：[info@taka-spo.com](mailto:info@taka-spo.com)